

授業でも！

つかえる

# ちゃぐりん

VOL.51



◇記事名：7月号 10～13P「ナイスなナスクッキング」

◇対象：社会科・家庭科(5～6年生)、生活科

文・藤本勇二 (武庫川女子大学 専任講師)

ナスは夏野菜の代表。育てやすいため学校での栽培活動にも適していますので、生活科でナスを育ててみましょう。地元のJAや農家の方に育て方を教えていただくこともよいでしょう。社会科の時間には、地域のナス農家の方の仕事の工夫や努力を学ぶことができます。家庭科では、調理の学習に取り上げることもできます。こうした定番のナスの教材化以外にも、取り上げることができるプランを以下にご紹介します。

## 1. ナスの絵を描こう(5年社会科・品種改良、6年社会科・飛鳥時代)

子どもたちにナスの絵を描かせることから授業を始めます。描いたナスに色を塗るようにします。次に、描いたナスの絵を隣の人と比べます。形は細長いか丸いもので、色は紫をしていることを確認します。それから、ALTの先生に描いてもらったナスの絵を紹介します。形は、卵型で白い色をしています。子どもたちから驚きの声が上がります。そこで、ナスのもともとの形や色は“eggplant”と呼ばれているくらいに卵型で白いこと、紫色は日本独自の色であることを伝えます。なぜ、日本では紫色のナスなのか子どもたちに問いかけてみましょう。

5年生であれば、紫外線の少ないハウス栽培で改良を重ねてきた結果であることにつなげるとよいでしょう。

6年生であれば、聖徳太子の冠位十二階につなげて、紫色は一番高貴な色であり、紫を好んだということを紹介します。

## 2. 野菜のおなか(5～6年生、家庭科・野菜の栄養)

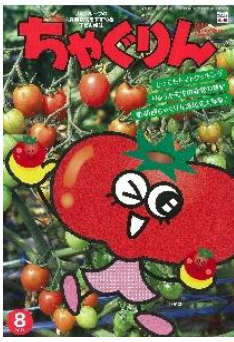
授業の冒頭で、「野菜を色で分けるとどうかな？」と問い、野菜は色の濃い野菜と色の薄い野菜に分けることができることを知らせます。

次に、野菜カード(裏に磁石を付けたA6大の紙に野菜の絵が書いてある)を子どもたちに渡して、色の濃い野菜か、色の薄い野菜かの仲間分けをしてもらいます。

「キュウリは色の濃い方だろう」「ニンジンも濃いグループだね」と、グループで話し合った結果を黒板に貼ります。次に、教科書の巻末に掲載されている「いろいろな食品の分類の例」または「栄養素のはたらきによる食品のグループ分け」の図を見るように指示します。「やっぱりネギとダイコンは両方にかかっているね」「あれ？キュウリは色の薄いグループに入っているよ」「おかしいな、緑色が濃いだけだなあ」と子どもたち。そこで、「2つのグループには、決まりがあるのですが、わかりますか」と聞きます。

そして、用意したキュウリを切ってみます。中を見ると色が薄いのです。だとするとキャベツは……。こちらは買ってきたカット済みのものを見せます。「やっぱり薄い！」「ナスはどうだろうか、切ってみよう」。ナスを切ってみると、こちらの中が薄い色になっています。

トマトは赤くても緑黄色野菜です。ダイコンは淡色野菜ですが葉は緑黄色野菜、白ネギは白い部分が淡色野菜で緑の部分は緑黄色野菜と、部位によって変わったりします。簡単な見分け方は、カットした中身の色があるかどうか、濃いか薄いかです。このように「緑黄色野菜」か「淡色野菜」かは、見た目の色ではなくて“野菜のおなか”の色であることに気づかせます。



JAグループの食農教育を  
すすめる子ども雑誌

# ちゃぐりん

Child Agriculture Green

子どもたちに伝えたい!

2017年8月号

おすすめ記事

## とってもトマトクッキング



掲載ページ: 12~15P

夏に旬をむかえるトマトは、おいしさを感じるうまみ成分がたっぷり入った野菜。トマトに含まれるうまみ成分は、「グルタミン酸」といいます。また、かつおだしには、「イノシン酸」といううまみ成分があり、この二つを組み合わせると、「味の相乗効果」が生まれるのです。この効果を確かめる実験や、トマトのうまみ成分をたっぷり味わえるレシピを紹介します。

## りゅうた先生の 味覚の教室



掲載ページ: 19~23P

味の基本となる「塩味」「酸味」「苦み」「甘み」と「うまみ」を合わせた五つの味覚について実験をしながら、五感のたいせつさについて考えます。「うまみ」は、昆布だし、煮干しなど、だしの味を比較してみるなどして、食や食材への関心も高めます。調理指導は、きじまりゅうた先生です。

## わくわく! 食農ワーク



掲載ページ: 38~39P

フードレンジャー・チャグリンといっしょに今月もクイズに挑戦してみましょう。豆乳や豆腐、プリン、マーガリン、ビスケットなどの写真の中から、牛乳を使って作る食品を当てるクイズ。意外な難問もあるかもしれません。ちゃぐりんフェスタや親子イベントの際に導入部分で活用してもよいでしょう。

## 【別冊付録】 田んぼとお米 八十八のへえ~ブック



水田農業や「お米」の重要性と、子どもたちの体の成長に欠かすことができない「ごはん」の大切さに気づいてもらうための別冊付録。米の漢字をばらした「八十八」にこだわり、子どもたちがおどろく「88個のへえ~情報」を掲載します。「田んぼの生き物調査・おもしろ! シールブック」と合わせて活用を!